

成人 おめでとう

1月3日、すこやかセンター伊野で成人式が開催され、20歳を迎えた180名が成人の仲間入りをしました。式典に参加された新成人の方々は、久しぶりの再会に互いの近況を話しあったり、記念写真を撮ったりと成人となった喜びを分かち合っていました。

式典では来賓の皆さんのお祝いの言葉を受け、岡林翔さんが謝辞を述べられました。また町からの記念品を、新成人を代表して中嶋ひなのさんが受け取られました。最後にアトラクションとして、吾北一番風による和太鼓の演奏が披露され、会場は新春らしい賑やかな音色に包まれました。

記念行事として、今年は片岡雅世さんと筒井祐吏さんが新成人の主張を発表されましたので掲載します。



本日、成人式という人生の節目となる式をこのように多くの人々と共に迎えることができ、とても嬉しく思います。このような式を開催して頂き、本当に感謝の気持ちで一杯です。また、町長はじめ来賓の皆様、お忙しいところご臨席頂き、新成人一同を代表して心よりお礼申し上げます。

さて、新成人の皆さんはこの日をどのような気持ちで迎えていますか。私は大人の仲間入りができる喜びに胸を膨らませると同時に、これから自立し自分の責任で物事を判断していかなくてはならないことに不安を感じているところだと思います。皆さんの多くもこのような感情を抱いているのではないのでしょうか。

私はこの日を迎えるにあたり、二つのことを大切にしながら大人への階段を歩んでいきたいと思っています。



成人の主張

ことは、感謝の気持ちを常日頃から感じられるようになることです。昨年私は、ラオスの母子健康を考える研修のため、二週間ほどラオスに滞在しました。この研修に参加したことで私の価値観が、がらりと変わりました。ラオスの人々の生活水準は、日本の生活水準と比べると決して良いものではありません。それでも毎日を生懸命生きようとする姿には、言葉に表せない感情が沸き上がったことを覚えております。

また、家族や地域の人々に対して感謝の気持ちを表し、お互いのことを大切にする姿勢もよく目にしました。私達は、周りの人々に感謝することを忘れかけていませんか。私達はすぐに環境を問題に上げ、不平不満を言ってしまう。しかし、日本に生まれた時点で多くの人は教育を受けられ、飢餓に苦しむことなく生活をしています。このことを当たり前と想っていませんか。私達は、世界の多くの子供たちが手に入れられないことを経験しています。この事実を知って欲しいです。ここまで生活できたことは奇跡なのです。そうです、この場に立てているのは、私達のことを自分のことのように愛してくれた両親、楽しいこと悲しいことを共に分かち合いながらいつも応援してくれた